

小児歯科医としての学校歯科活動 第2報

○加藤真由美*、 尾崎正雄**

*くばがわ歯科医院

**福岡歯科大学 成長歯科小児歯科学分野

【目的】我が沖縄県は、年々齲蝕減少傾向にあるもの、一人平均齲蝕歯数は全国平均 0.83 歯に対して沖縄県は 1.9 歯と長年にわたり低迷しており全国最下位である。演者が学校歯科医をしている I 小学校は在校生 804 名と大規模校である。平成 27 年度の未処置歯数は 47.5%、平成 28 年度健診直後の未処置歯数は 46% と変化がみられなかった為、歯科保健活動を行ったところ平成 29 年度の未処置歯数は 39.8% と減少傾向がみられた。だが、齲蝕なしは 32.8% と依然として高い傾向にある為平成 29 年度より同敷地内に幼保連携型認定こども園が新設されたのを機にフッ化物洗口導入の活動を始めたので報告をする。【方法】 1)

認定こども園 4 歳児 30 名、5 歳児 65 名の父母に対して 7 月にフッ化物に対する講話開催 2) アンケート調査後、すでにフッ化物洗口導入している筆者が嘱託医をしている保育所へ職員研修予定 3) 開催希望があれば再びフッ化物洗口説明会 4) 子ども達への洗口指導及び練習 5) 今年度中フッ化物洗口を

実施予定とする【結果・考察】今年度新設された認定こども園の 5 歳児クラスの齲蝕なしは 49% と高い傾向にある。また 4 歳児クラスの齲蝕なしは 37% である。I 小学校と同敷地内にあることから大半の園児は I 小学校へ進学する。

平成 29 年度における I 小学校 1 年生の齲蝕なしは 43% と平成 28 年度 1 年生 29% と比較しても高い状況にある。これは I 小学校校区内の児童及び父母の口腔内環境において関心をもってきていると考えられる。長年にわたり未処置歯数 40% 代にもかかわらず、健診後受診が伸びなかった為昨年度は各学年に適した歯科保健活動を実施したが、今年度の未処置歯数は 30% 代となっている。沖縄県の離島では小学校でのフッ化物洗口の実施校がある。12 歳児一人平均齲蝕歯数は 0.57 歯と全国平均を上回る水準まできている。今後それを目指して活動していきたい。